

浅野暢晴 1979年茨城県生まれ。

2004年、筑波大学大学院修士課程芸術研究科美術専攻彫塑分野修了。

土偶を見たときに受けた独自の感覚をきっかけに、土を焼くことに興味を持ち、
園に住むひととならざる存在達に焦点をあて、陶を素材に彫刻作品を制作。

彫刻作品をホームステイさせる「旅するトリックスタープロジェクト」などを行
い、SNSを通じた新しい発表の形を模索している。

近年の主な展覧会に、中之条ビエンナーレ（群馬）、こだま芸術祭（埼玉）、
Traveling trickster（ビエントアーツギャラリー）などがある。

HP: <http://asanobuharu.mongolian.jp/>



浅野暢晴の彫刻作品
「トリックスター」
が旅をする
「旅するトリックスター」



※「旅するトリックスタープロジェクト」の写真などは本展には、出品されません。

浅野暢晴 個展 「現れるところ 消えるところ」

会期：2020年1月11日（土）－19日（日）

open：月・火・土・日 12時－19時
水・金 15時－21時

close：16日（木）

入場料：500円

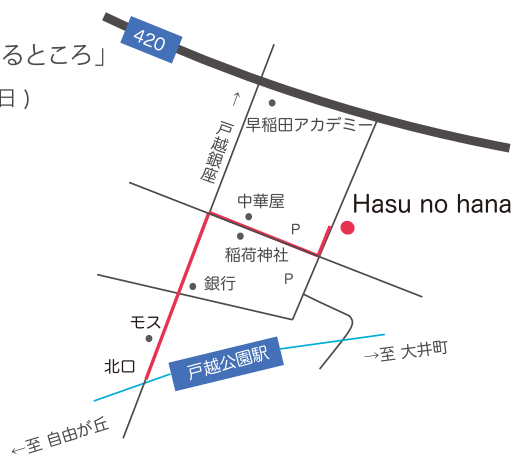
問合せ：e-mail hasucafe@sw.sub.jp

tel：050-3592-0799

HP：www.hasunohana.net

会場：Hasu no hana

住所：品川区戸越5-8-19



東急大井町線戸越公園駅より徒歩2分。
2本目の角を右折、駐車場を脇目に1本目の
角左折。2軒目ブルーグレーの古民家です。



浅野暢晴 個展
「現れるところ 消えるところ」
2020.1.11 - 19 at Hasu no hana

浅野暢晴 個展「現れるところ 消えるところ」

Hasu no hanaでは、2020年1月11日(土)～19日(日)まで浅野暢晴 個展「現れるところ 消えるところ」を開催いたします。私方ギャラリーでは2016年の個展「百目」以来の紹介となりますが、近年は地方での発表が続いたため、東京での個展も実に3年ぶりとなります。

右下の文は本展に寄せた作家の言葉ですが、浅野にとって生と死の“境”に興味を抱いていることが垣間見れます。その“境”には、不安定で曖昧な存在たちがいる。彼らに形を与え、彼らの存在する世界(闇)を内包させたものが、代表作でもある陶の彫刻作品「トリックスター」となります。

2016年の個展「百目」の時には、彼らにはまだ名前がなく、知る人も少なかったが、翌年に行われた中之条ビエンナーレで“謎のオブジェ”としてSNSを通じて静かに話題になっていきます。「トリックスター」という愛称を与えられ、作者の手からも離れその存在が知られていくようになるにつれ制作・発表と作家を取り巻く環境は大きく変化をもたらしました。さらに陶の彫刻である「トリックスター」に旅をさせるというプロジェクトも実施し、現在も展覧会とは異なる形で、常に作品が知られる機会に恵まれています。開けてきてはいるものの、アート業界というのは未だに狭い世界であり、業界内で評価のあるアーティストでも、一般的に知られていることは少ないのが現状です。そういった意味では「トリックスター」は、例外的な広まり方をした/している作品だと言えます。

本展は、2017年以降に「トリックスター」を知った人々は、彼らが内包している闇をみたことがあるだろうか?というギャラリーからの問いに対し、浅野暢晴が今一度自身の制作を振り返るような形で新旧交え、テーマを見つめていきます。

私たちの日常は永遠には続かない。

突然に「死」という終着点をもって塗りつぶされる。

では、トリックスター達は、どこから現れて、どこに消えて行くのか?

彼らにとっての「生」とは「死」とは何なのか。

トリックスターの「現れる場所と消える場所」を考え、展覧会として

現すことで、私たちの「生と死」を考えるきっかけとしたい。

浅野暢晴



小さい頃から眠るのが怖かった。「寝ている間に死んでしまったらどうしよう」と不安だったからだ。死ぬことが怖い、というよりも「死を知りたい」と思っていた私にとっては、死の瞬間を知らずに、いつの間にか死んでしまうことが怖かったのだ。

